

松山大学論集 第14巻 (自第1号(2002年4月)至第6号(2003年2月)) 総目次

論 説	号数	頁	執筆者	
地域経済統合における労働組合の影響： インセンティヴの観点から	1	1	道下	仁朗
イギリスにおける義務教育制度の動向	1	23	藤井	泰
生活保護制度における私的扶養	1	51	牧園	清子
労働委員会における個別の労使紛争処理	1	81	村田	毅之
悪の問題と進化	1	140	入江	重吉
1960年代前半の高畠亀太郎 (下) ——政治面——	2	1	川東	崢弘
ギリシャの観光産業と観光政策	2	19	鈴木	茂
EUの通貨統合と南欧諸国への地域政策	2	41	松浦	一悦
スポーツ指導者としての教師 ——マンガに見る現代の教師像——	2	83	山田	浩之
最大善意の原則の生成 (一)	2	103	中村	雅人
Graham Buxton 研究 ——『Effective Marketing Logistics』 を中心にして——	2	119	菊池	一夫
1960年代後半から70年代初頭の高畠亀太郎 (上) ——家業面について——	3	1	川東	崢弘
経営データの特質と統計分析 (データ解析) の可能性	3	35	東渕	則之
最大善意の原則の生成 (二・完)	3	53	中村	雅人
製品開発におけるデザインの問題	3	73	苅谷	寿夫

論 説	号数	頁	執筆者
19世紀末ロンドンにおけるリヴァリ・カンパニーの技術教育振興策 —王立委員会の分析を中心として—	3	87	松本 純
「有高変動(原因)分析貸借対照表」の展開試案 —行列簿記に基づく「資金計算書」からの展開の可能性—	4	5	安平昭二
カメラール簿記と近代会計	4	25	戸田博之
財務諸表三本化の理論について —倉田理論に学ぶ—	4	43	新田忠誓
測定誤差と回帰係数の偏り	4	57	洲浜源一
アメリカ会計における意思決定有用性アプローチの軌跡	4	67	原田満範
ドイツ化学工業の産業レベルにおける倫理	4	89	岡本人志
公益法人会計の概要とその課題	4	111	須藤芳正
HRMの生成と展開 —新たなボトルの中身は以前のワイン?—	4	129	倉田致知
EXCEL利用のシミュレーション —いくつかの教育的例題(I)—	4	155	石田徳孝
ライフサイクル・コスティング —その方法と体系に関する研究—	4	183	岡野憲治
発生主義の機能する時点について	4	203	清水茂良
ビジネス実践における統計分析のマネジメント	4	217	東渕則之
フランスにおける金融先物取引の会計処理	4	231	村上宏之
活動基準予算に関する一考察 —James A. Brimson & John Antosによるモデルの検討を中心にして—	4	251	森本三義
英國資金会計の本質	4	271	溝上達也

論 説	号 数	頁	執 筆 者	
1960年代後半から70年代初頭の高畠亀太郎(下) —政治面について—	4	289	川 東 錠 弘	
利害関係に基づく戦略型ゲームの分類と繰り返 しゲームにおける協調の生成(1) —理論とその経済学的応用—	4	311	松 本 直 樹	
利害関係に基づく戦略型ゲームの分類と繰り返 しゲームにおける協調の生成(2) —ホールド・アップ問題とチーム生産— ...	5	1	松 本 直 樹	
貿易自由化と地域経済統合： 政治経済学アプローチ	5	17	道 下 仁 朗	
国際社会を搖るがす 「アメリカ的価値観」の功罪（前編） —「9.11米中枢テロ」以後を巡って—	5	31	尾 崎 恒	
松山市のイメージ ～市内若者層の都市イメージ調査(1)～ ...	5	57	市 川 虎 彦	
フランスにおける1967～68年社会保障制度改革 —ゴーリズム下の「福祉国家」再編—	5	124	廣 澤 孝 之	
地域資金循環 SAM の展開	6	1	宍 戸 邦 彦	
フロンティア生産関数による合併の効率性分析 —製紙業界再編のケース—	6	25	上 田 雅 弘	
学生による授業評価の信頼性と妥当性に関する検討	6	55	南 学	
政界再編期における地方政党組織	6	69	市 川 虎 彦	
携帯メールと孤独	6	85	中 村 功	

研究ノート

号数 頁 執筆者

- | | | | | |
|---|---|-----|----|----|
| 無線 LAN (IEEE 規格802.11b)への
MS-Windows CE マシン接続について
—ユビキュタス・コンピューティングの実現に
向けて— | 1 | 99 | 墨岡 | 学 |
| 高所トレッキングにおける安静時と深呼吸時
の動脈血酸素飽和度の変動 | 4 | 331 | 平岩 | 松井 |
| J-Stock 銘柄によるポートフォリオ作成とその
解釈についての一試論 | 6 | 101 | 松本 | 直樹 |

判例批評

- 妻が生んだ人工受精（AID）子を夫は否認できるか
(大阪地判平10.12.18家月51-9-71,
判夕1017-213) 3 113 石原善幸

翻訳

- ローター・ケーレン
「刑法上の製造物責任の必要性と限界」 … 5 79 神 例 康 博